令和８年度 青少年交流事業

アメリカ・ヒューストン市派遣

帰 国 報 告 書

公益財団法人千葉市国際交流協会

目 次

１．派遣概要・・・

１．派遣概要

（１）派遣都市　　アメリカ合衆国・テキサス州 ヒューストン市
（２）派遣期間　　令和８年８月１４日（金）～令和８年８月２７日（木）
（３）派遣者　　中学生４人、引率者１人
（４）滞在形態　　一般家庭にホームステイ
（５）現地受入機関　ヒューストン日米協会
Japan-America Society of Houston（略称 JASH）
（６）現地受入校　　River Oaks Baptist School（略称 ROBS）

２．滞在日程

日　付	時　間	内　容
８月 14 日(金)	(日本時間)	
	14：00	成田空港第１ターミナルに集合
	17：00	成田空港発　ユナイテッド航空 006 便に搭乗・出発
	(現地時間)	
同日	15：15	IAH ｼﾞｮｰｼﾞ・ﾌﾞｯｼｭ・ｲﾝﾀｰｺﾝﾁﾈﾝﾀﾙ空港到着・入国審査
	17：00	JASH の佐藤さん、ブラウンさんと会い、事務所に移動。 ホストファミリーたちと会い、家庭ごとに自宅へ解散。   ［資料１］IAH 空港到着　　［資料２］現地家族と対面
８月 15 日(土)		Free Day（各家庭でホストファミリーごとの活動）
８月 16 日(日)	AM PM	Free Day（各家庭でホストファミリーごとの活動） 派遣生のホストファミリー宅に集まり、各家庭で料理を持ち寄り、ウェルカムプールパーティ。  ［資料３］プールパーティ

日　付	時　間	内　容
8 月 17 日(月)	9：30	Arrive at JASH OFFICE（事務所に集合） Depart from JASH（出発）  ［資料４］JASH のブラウンさんに日本のお土産を渡す
	10：30	NASA(NASA's Johnson Space Center)見学 昼食は NASA 内のフードエリア
	15：00	Arrive at JASH for pick up（解散）    ［資料５］NASA ジョンソン宇宙センター
8 月 18 日(火)	8：15	Arrive at JASH OFFICE
		Depart from JASH
	9：00	City Hall　市役所にて見学・市長訪問
	11：00	LUNCH：POST HOUSTON（郵便局跡地のフードモール）
	12：00	Daikin Park Tour（MLB アストロズの本拠地ダイキンパークでスタジアム見学)
	15：00	Arrive at JASH for pick up（解散）   ［資料６］市庁舎訪問　市長と会談   ［資料７］ダイキンパークスタジアムツアー

日　付	時　間	内　容
8月19日(水)	9：00	Arrive at JASH OFFICE
		Depart from JASH
	10：00	Museum District　ヒューストン自然科学博物館を見学
		昼食は館内フードエリアにて
	13：00	Shift at Kid's Meals
		キッズミールズでボランティア活動
	16：30	Arrive at JASH for pick up（解散）
		 
		［資料８］自然科学博物館　　［資料９］ボランティア活動
8月20日(木)	9：00	Arrive at JASH OFFICE
	10：00	Depart from JASH
		Tour of Daikin Technology Park　ダイキン工場見学
		LUNCH:BUC-EE'S　有名なガソリンスタンド　バッキーズで
	14：00	買い物・昼食
		Fire Station37　消防署訪問も出動中のため予定変更
	16：30	ジェラート休憩&Color Factory へ
		Arrive at JASH for pick up（解散）
		 
		［資料 10］ダイキン工場　　［資料 11］バッキーズ
		 
		［資料 12］消防署　　［資料 13］カラーファクトリー

日　付	時　間	内　容
8月21日(金)	8：00	River Oaks Baptist School　ROBSで授業体験１日目 ホストブラザー・シスターの授業を体験  ［資料14］授業の様子  ［資料15］昼休みの様子
8月22日(土)		Free Day（各家庭でホストファミリーごとの活動）
8月23日(日)	AM PM	Free Day（各家庭でホストファミリーごとの活動） ホストファミリーがレストランに集まり、ディナーと派遣生のよさこい練習  ［資料16］集合写真
8月24日(月)	8：00	River Oaks Baptist School　ROBSで授業体験２日目 派遣生だけでの体験授業  ［資料17］美術の授業  ［資料18］技術の授業
8月25日(火)	8：00	River Oaks Baptist School　ROBSで授業体験３日目 朝の集会で派遣生はクイズとよさこいを披露、校長先生と交流、小学生からの質問タイム、広報インタビュー

日　付	時　間	内　容
		  ［資料 19］集会でよさこい披露　　［資料 20］校長先生と交流   ［資料 21］カフェテリアで昼食タイム   ［資料 22］小学生から質問　　［資料 23］広報インタビュー
8 月 26 日(水)	7：00 10：45	Arrive at JASH OFFICE ﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰと別れ、IAH ｼﾞｮｰｼﾞ・ﾌﾞｯｼｭ・ｲﾝﾀｰｺﾝﾁﾈﾝﾀﾙ空港へ IAH 空港発ユナイテッド航空 007 便に搭乗・出発   ［資料 24］お別れ　　［資料 25］出国
8 月 27 日(木)	(日本時間) 13：50	成田空港到着・入国審査・帰国 千葉市国際交流協会 担当者及び保護者と合流・解散

３．研究レポート

時間の使い方の違いについて

佐伯　星哉

【テーマ選定理由】

日本人小中学生の平均睡眠時間が、厚生労働省の出している年齢別推奨睡眠時間を下回っていると言われている。また、スマートフォンやゲーム機の使用率、使用時間が年々増加していると言われていることから、日米小中学生の生活時間の使い方の違いについて興味をもった。

【研究内容】　一日のスケジュールについてのアンケート調査によって、
日本とアメリカの生活時間についての違いを比較する

【研究方法】　アンケートの実施

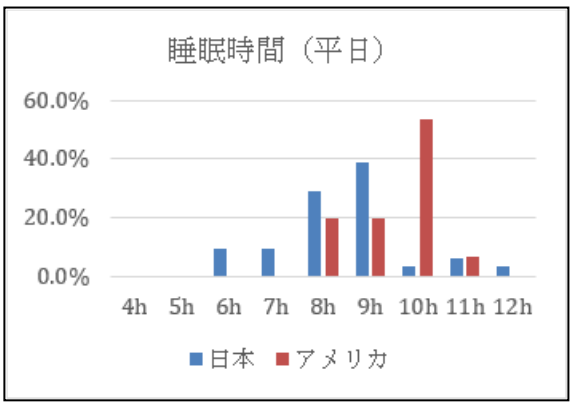
◯千葉市内小学校	（１０～１１歳）	３１人
◎River Oaks Baptist School	（１１歳）	１５人

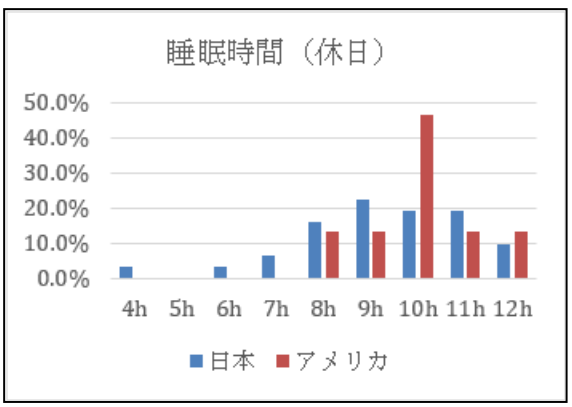
【予　　想】

- 日本人の睡眠時間はアメリカ人よりも短い。
- 運動時間はアメリカも日本もあまり変わらないと思う。
- 夕食の長さは、アメリカの方々は会話をしながら食べているイメージがあるので、日本よりも長い。
- アメリカのほうがゲームをやっているイメージがあるのでゲーム時間は日本よりも多いと思う。
- スマートフォンの使用時間は日本が圧倒的に多いと考える。

【研究結果】

（１）睡眠時間





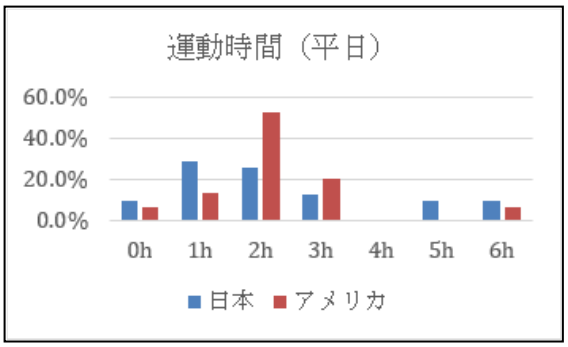
睡眠時間（平日）

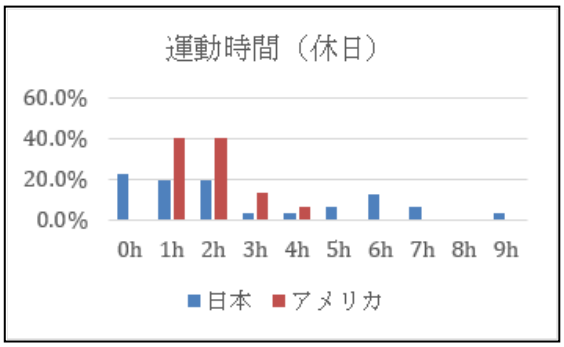
	平均値	中央値
日本	8.13 時間	8 時間
アメリカ	9.87 時間	10 時間

睡眠時間（休日）

平均値	中央値
9.19 時間	9 時間
10.20 時間	10 時間

（２）運動時間





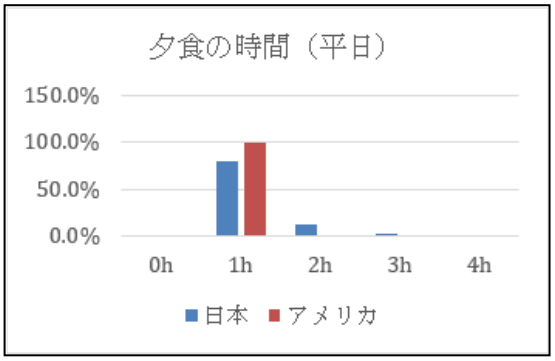
運動時間（平日）

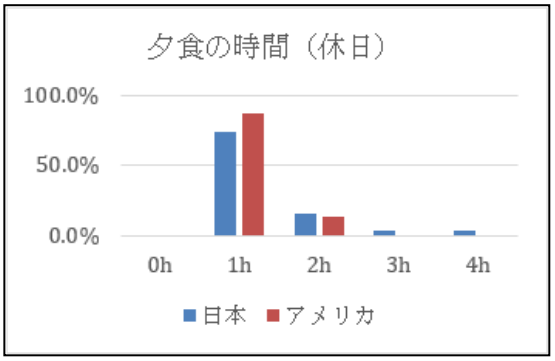
	平均値	中央値
日本	2.00 時間	2 時間
アメリカ	2.33 時間	2 時間

運動時間（休日）

平均値	中央値
2.61 時間	2 時間
2.00 時間	2 時間

（３）夕食の時間





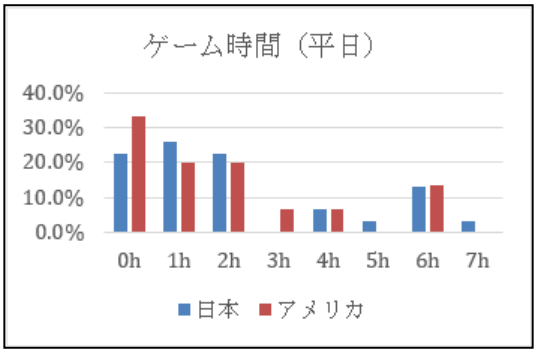
夕食の時間（平日）

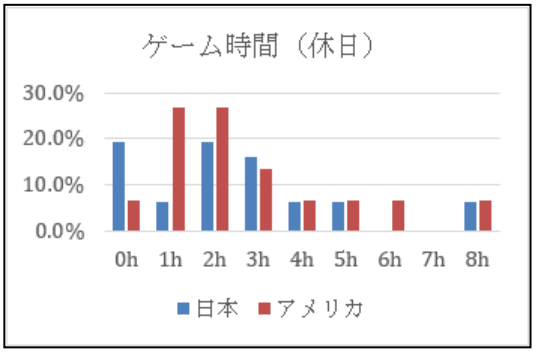
	平均値	中央値
日本	1.23 時間	1 時間
アメリカ	1.00 時間	1 時間

夕食の時間（休日）

平均値	中央値
1.35 時間	1 時間
1.13 時間	1 時間

（４）ゲーム時間





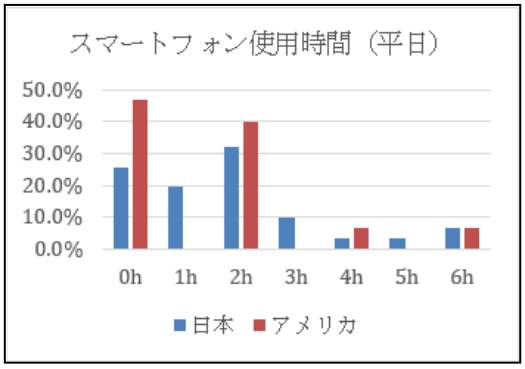
ゲーム時間（平日）

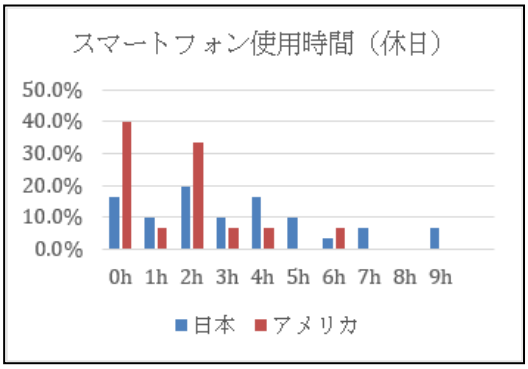
	平均値	中央値
日本	2.26 時間	1 時間
アメリカ	1.87 時間	1 時間

ゲーム時間（休日）

平均値	中央値
4.29 時間	3 時間
2.80 時間	2 時間

（５）スマートフォン使用時間





スマートフォン使用時間（平日）

	平均値	中央値
日本	1.81 時間	2 時間
アメリカ	1.53 時間	2 時間

スマートフォン使用時間（休日）

平均値	中央値
3.84 時間	3 時間
1.80 時間	2 時間

【考察】

睡眠時間は、平日と休日ともに日本のほうが１時間以上少なかった。運動時間については、日米ともに変わりはないが、日本の方が人による差が大きかった。食事時間は予想とは異なり、あまり時間の差がなかった。ゲーム時間とスマートフォン使用時間は、日本が多く、休日の使用時間は圧倒的に多かった。特にスマートフォンに関して、アメリカでは持っていない人も多くいて、話を聞くと、高校に行ったら買ってあげるという

ルールの家庭が多かった。一方で、日本人は多くの人が持っており、一日の４分の１ほどの時間を費やしている人もいた。アメリカでは子どもがスマートフォンを持つことが悪影響だと言っている親も多くいた。また、ゲーム機類はアメリカにも多くあるが、ホームステイ中は、近所の子たちと外で一緒に遊んだり、ボードゲームをしたりして、人と関わっていることが多かった。日本の子どもは、一人でゲームやスマートフォンを使う時間が長く、終わりの時間に区切りがつけづらいため、睡眠時間も短くなっていることが考えられる。

【感想・まとめ】

実際にアメリカに行って、自分で調査をすることで日本人が持っているアメリカへのイメージが変わった。僕は調査をする前に予想を立てていたが、アメリカとはこういうものだろうなというイメージを元に立てたものであり、予想と結果が同じにならなかった。アメリカといってもとても広いので、僕が調査したのはアメリカ総人口約 3 億 4,235 万人(2026 年 2 月時点)の中のたった 15 人だから、アメリカ人全員がそうかはわからないが、自分が感じ取った経験は、アンケートで調べるよりも貴重な結果になると思う。『馬には乗ってみよ、人には添うてみよ』というように、イメージするよりも実際に行ってみて、体験することが一番良いと思う。

ヒューストン市と千葉市の中学生の生活の比較

常見　優月

【テーマ選定理由】

私は水泳が好きで、学校外のスポーツクラブで水泳に取り組んでいる。しかし、学校の宿題が多く、勉強と水泳を両立させるのが難しいと感じている。そのような中、アメリカでは一般に文武両道が重視されていると聞き、ヒューストン市の中学生が、勉強やスポーツ、学校外の活動などにどのように取り組んでいるのかに興味を持った。

そこで、ヒューストン市と千葉市の中学生のライフスタイルを比較するため、部活動と勉強の両立、図書館などの公共施設の利用等について、調査した。

【研究方法】

（１）調査方法

ヒューストン市と千葉市の中学生の生活スタイル（勉強と部活動の取り組み方、公共施設の利用など）の共通点や違いについて調べるため、アンケート形式で調査を行った。また、アンケートの結果を踏まえ、さらにインタビュー形式でも調査を行った。

（２）調査対象

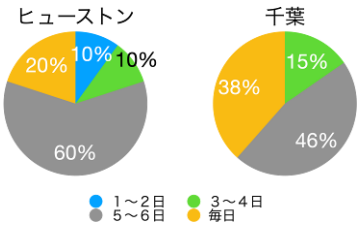
千葉市の中学生　　１３人

ヒューストン市の中学生（ROBS）　　１０人

【結果・考察】

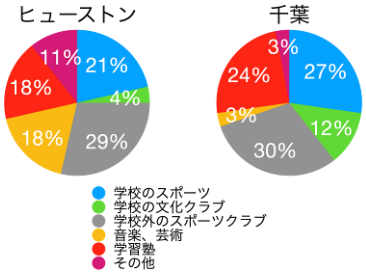
＜部活動と勉強について＞

Q．放課後の活動（部活動）を週に何日行っていますか？



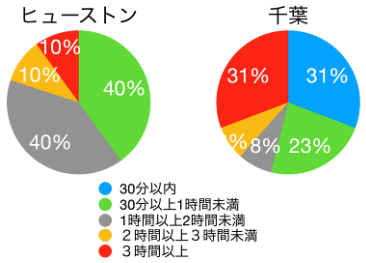
ヒューストン市では、５～６日活動している生徒が多かった。週末は家族と過ごす時間を設けているように感じられた。千葉市では、毎日活動している生徒が多かった。これは、運動部など、練習日数の多い部活動に所属する生徒が多いためと考えられる。

Q．どのような放課後の活動に参加していますか？（複数回答あり）



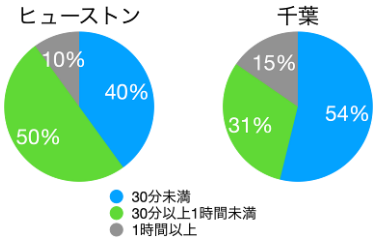
ヒューストン市では、学校の文化クラブに入っている生徒は少なかった。日本の文化クラブに相当する活動が、選択科目の一つになっていることによると考えられる（オーケストラの授業があった）。ヒューストン市では、数学や受験のためのエッセイを教える塾に通っている生徒もいた。

Q．平日宿題を含めてどのくらい勉強しますか？



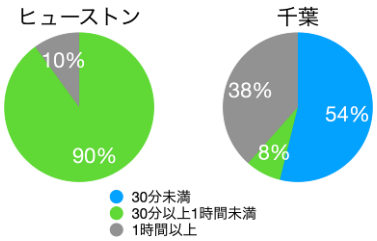
ヒューストン市では、勉強時間が３０分から２時間の生徒の割合が高かった。放課後の活動だけでなく勉強もしっかり取り組んでいることが分かった。千葉市では、勉強時間が３０分以内の生徒と３時間以上の生徒の割合が高く、バラツキが大きかった。

［勉強の内訳・・・宿題について］



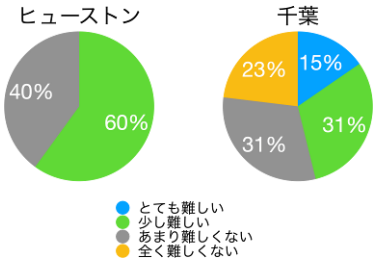
ヒューストン市では、宿題を３０分から１時間で終わらせる生徒の割合が高く、千葉市では、宿題を３０分以内で終わらせる生徒の割合が高かった。宿題の量の違いによるものと思われる。千葉市では、そもそも宿題がないと答えた生徒もいた。

［勉強の内訳・・・自主学習について］



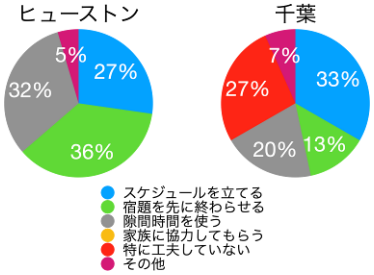
ヒューストン市では、全員が自主学習を３０分以上行っていた。宿題だけでなく、自主学習にもしっかり取り組んでいることが分かった。千葉市では、３０分未満の生徒の割合が高かったが、１時間以上かける生徒の割合も高く、バラツキがあった。

Q．放課後の活動と勉強の両立は難しいですか？



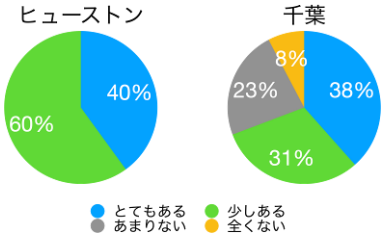
ヒューストン市では、全員が中間的な回答だった。直接聞いた回答でも、特段難しいとも簡単とも思っていない様子だった。千葉市では、とても難しいと感じている生徒から、全く難しくないと感じている生徒もいて、バラツキが大きかった。

Q．部活動と勉強の両立のために工夫していることはありますか？（複数回答あり）



ヒューストン市では、ほぼ全員が「スケジュールを立てる」、「宿題を先に終わらせる」、「隙間時間を使う」といった工夫をしていた。千葉市でも、同様の工夫をしている生徒の割合は高かったが、「特に工夫していない」と答えた生徒の割合も高かった。

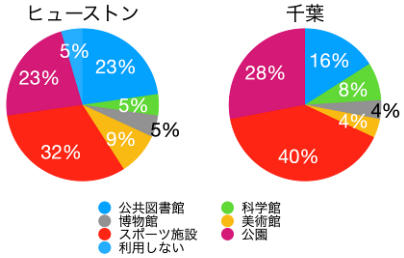
Q．放課後の活動は勉強に良い影響がありますか？



ヒューストン市では、全員が放課後の活動が勉強に良い影響があると答えていた。千葉市では、良い影響があると答えた生徒が多かったが、ないと答えた生徒もおり、バラツキがあった。

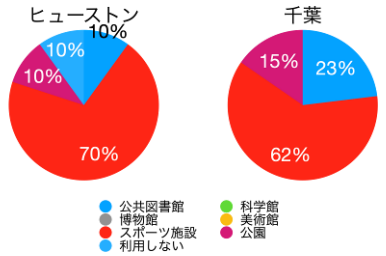
＜公共施設の利用について＞

Q．どの公共施設を利用しますか？（複数回答あり）



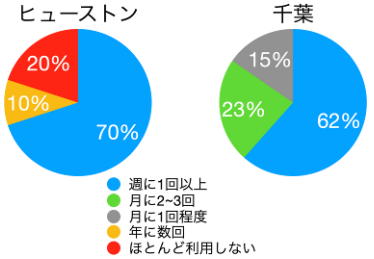
ヒューストン市でも千葉市でも、スポーツ施設を利用する生徒が多かった。ヒューストン市でも千葉市でも、それぞれの施設の利用割合は概ね同様だった。

Q．最もよく利用する施設はどれですか？



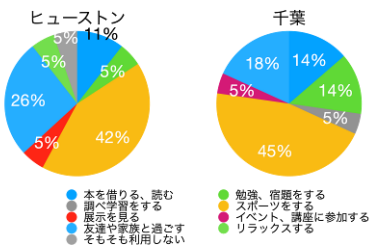
ヒューストン市でも千葉市でも、スポーツ施設を最もよく利用すると回答した生徒が多かった。ヒューストン市では、図書館と回答した生徒は少なかったが、千葉市では、スポーツ施設の次に多かった。ヒューストン市では、図書館などの公共施設は、車でないと行きにくく、中学生が一人で行く場所でもないとのことで、スポーツ施設以外は頻繁に利用されていない様子だった。

Q．最もよく利用する施設の使う頻度は？



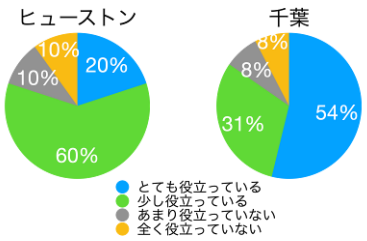
ヒューストン市でも千葉市でも、週に１回以上利用している割合が高かった。ヒューストン市では、スポーツ施設が多く利用されていたが、千葉市では、スポーツ施設だけでなく図書館なども多く利用されていた。ヒューストン市では、ほとんど利用しないという回答も多かった。

Q．最もよく利用する施設の使う目的は？（複数回答あり）



ヒューストン市でも千葉市でも、スポーツをするために公共施設を使用している生徒が多かった。ヒューストン市では、勉強や宿題をするために公共施設を使用している生徒は少なかったが、千葉市では比較的多かった。これは図書館等の公共施設が多く利用されているためと思われる。

Q．公共施設は勉強や生活に役立っていると思いますか？



千葉市では、とても役立っていると答えた生徒の割合が高かった。これは、公共施設に行きやすいことや、勉強や宿題に活用する生徒が比較的多いことが影響していると思われる。ヒューストン市でも、役立っていると答えた生徒の割合は高かったが、スポーツ施設が主として活用されているためと考えられる。

【まとめ】

（１）勉強と部活動について

ヒューストン市と千葉市では、勉強や放課後の活動の取り組み方や意識に違いが見られた。ヒューストン市では、生徒全員が勉強と放課後の活動の両方に熱心に取り組んでいたが、両立をそれほど難しいと考えていなかった。ヒューストン市では、勉強と放課後の活動の両立のために、ほとんどの生徒が、スケジュールを立てる、隙間時間を使うなど工夫しており、このような工夫が文武両道のために重要であることが分かった。

（２）公共施設の利用について

ヒューストン市と千葉市では、利用頻度や利用目的に違いがあった。特に、千葉市では図書館などを勉強や宿題に利用する生徒がいる一方、ヒューストン市では公共施設を主にスポーツのために利用する生徒が多かった。ヒューストン市では、施設までの移動手段や安全面などの理由から、中学生が一人で公共施設を利用しにくいという背景があると感じられた。

アメリカと日本の食文化の違いについて

中村　希

【テーマ選定理由】

私は幼い頃から食べることが大好きで、今回の派遣にあたり、アメリカのご飯は量が多いし味が濃いよ！と聞き、大変興味を持った。また、食文化の基礎となる家庭での食事やスーパーでの販売方法、食文化自体に日米で違いがあるか知りたいと考えたため、このテーマを選択した。

併せて、アメリカでの食品ロスや飢餓問題に対する取り組みや、アメリカの郷土料理についても調べてみたいと考えた。

【調査方法】

・現地の学校の給食の調査
・食料問題に関する社会的取り組みの調査
・スーパーやレストランなどに行き実際に体験する
・外食時の量・味付けなどの調査
・家庭での日常食の調査

【調査結果】

（１）現地の学校給食

訪問した学校の給食はビュッフェ形式で、自分の食べたいものを好きなだけ取る方式だった。日本の給食は決まったメニューで決まった量が出てくるので栄養バランスなどがしっかり計算されているが、好きなものを自分で選択するアメリカの給食は、個人が意識しないと栄養が偏る可能性があるのではないかと思った。

また、その学校では余った給食はごみ箱に捨てられていたが、私の通う学校にはコンポストがあり、そこに食品残渣を入れ、乾燥させて肥料にしている。また、その肥料を利用し、校内でじゃがいもやスイカ等を栽培している。この点は、環境に配慮した良い取り組みだと思う。

（２）食料問題に関する社会的取り組み

ヒューストンにはフードバンクやキッズミールに取り組む団体があった。どちらの団体にも多くの人が集まっていたが、フードバンクに参加しているのは子供が多く、１グループ４，５人程度で活動していた。これに対し、キッズミールへの参加者は大人が多く、1 グループ 15 人程度で活動していた。

また、フードバンクではジュースやサンドイッチなど、すでに完成した製品を袋に詰める作業が主なものであったが、キッズミールではとうもろこしの皮をむくなど、

食材の下ごしらえから行った。

（３）日米のスーパーの比較

日本のスーパーでは、大抵の野菜や果物が小分けに個包装された状態で売り場に並んでいるが、アメリカのスーパーでは野菜や果物が仕入れたそのままの状態で売られており、買う人が必要な分だけ量り売りで購入する仕組みとなっている。すなわち、日本では一袋いくらと価格が決められているのに対し、アメリカではタマネギ１個を買うとしても、ひとつずつ重さが異なる＝値段が変わることとなり、公平で面白い仕組みだと思った。

また、個包装されていないことはゴミの削減にもつながり、環境にも優しい仕組みだと感じた。



◆アメリカでの野菜の購入方法

①買いたい野菜を欲しいだけ袋に入れる
②値札に書いてある番号を専用の機械に打ち込む
③出てきたシール状のラベルを商品が入れてある袋に貼る
④他の商品と一緒にレジで会計する

◆日米のスーパーの相違点と共通点

①相違点

≪日本≫

・個包装されて販売される商品が多い
・ケーキや総菜など、店頭から調理過程が見えないことが多い
・レジ袋が有料
・商品購入後、購入者が自分で袋に詰める
・アイスやお菓子など食べきりサイズ
・一商品の種類がそれほどない
・キャンペーン以外、販促が少ない
・精算前の商品を店内で食べてはいけない



≪アメリカ≫

・量り売りが基本（野菜、肉、魚、スパイス、お菓子など）
・調理過程が店頭から見える（例：店頭調理のケーキなど）
・レジ袋は無料
・会計後に店員さんが購入商品を袋に詰めてくれる
・アイスなどが大きく、食べきりサイズではない
・一商品の種類が多い（例：ヨーグルト、チーズ等）
・珍しい果物など、見たことのないものが売られていた



・子供などにノベルティなどをプレゼントしていることが多い
・精算前の商品でも店内で食べてよい
（空容器を見せて会計する）



②共通点
・スポンジや調理器具などが売っている
・お花のコーナーがある
・販売されている商品の種類は似通っている
（ブランドは異なる）
・輸入食品が売られている



（４）外食での量や味付け
外食では量の多いお店が多いと感じたが、稀にそれ程でもないお店もあった。
例えば、アイスクリーム屋さんでは大きなカップに山盛りで出てきたことに驚いた。
味付けは基本的に日本と同程度の濃さのお店が多かったが、たまに濃いお店もあった。
その点については、日本でも味付けの濃いお店も薄いお店もあるため、差は感じなかった。
また、外食時はお持ち帰り用のトレー（ドギーバッッグ）を頼むこともでき、残すことに対する罪悪感はなかった。

（５）日米の家庭での食文化の違い
「いただきます」と「ごちそうさま」を言う家庭とそうでない家庭があった。
私のホストファミリーはジーザス（神様）への感謝を食前、食後に述べていた。
家庭での食事も基本的に量が多く、現地の人でも食べきらないことがほとんどであるため、残してもよいといった寛容な空気があった。
また、基本的に外食も多く、これは子供がスポーツなどの習い事をやっている家庭が多いため、外で済ます習慣があるようだった。

【まとめ】
私が想像していたよりも日米の食文化は異なることがわかり、とても良い経験をすることが出来たと思う。
ヒューストンはクロスカントリーであることもあり、テックスメックスというメキシコとアメリカの料理が融合した食べ物があり、ホストファミリーからは私たちの郷土料理だと教えてもらうなど、大変興味深い体験となった。
また、日本食や中華料理など、世界中の料理も身近に食べることができたほか、ユニークな食品も多く、アメリカの食文化の幅広さを感じた。
最後に、近年、飢餓問題や食品ロス問題が浮き彫りになっているが、今回のホームス

テイを通し、日本人は食の問題に対する意識が低いのではないかと感じた。今後、日本でもフードドライブなどに参加してみるなど、自分の出来ることから意識を高めていき、食糧問題の解決につながるよう努めていきたいと思う。

日本とアメリカの味覚や「おいしい」の違いについて

築場　俊

【テーマ選定理由】

私は、中学一年の冬休みに、アメリカのロサンゼルスに旅行をした。私にとって初めての海外旅行で、日本とは全く違う社会や文化に触れて、とても興味深い体験となった。いろいろな文化の違いを感じる中でも特に、日本との食事内容の違いや、お店などで提供される食事の量の違いに驚き、アメリカの食文化に興味を持った。

食生活や食文化の違いを調べることで、日本以外の国の文化を理解したいと思ったのと、自分が住む日本の文化についても今よりも理解することができるのではないかと思ったため、このテーマを選んだ。

【研究内容】

日本人とアメリカ人を対象に、好きな食べ物や嫌いな食べ物、普段の生活の中でどのようなものをよく食べているか、どのようなところを「おいしい」と思っているかについて、アンケート調査を行った。また、ホームステイ中にさまざまな食事を体験させてもらって、ホストファミリーの普段の食生活を教えてもらった。

【研究方法】

日本とアメリカで同じ内容のアンケート用紙を配布して、記入してもらった。

＜研究対象＞

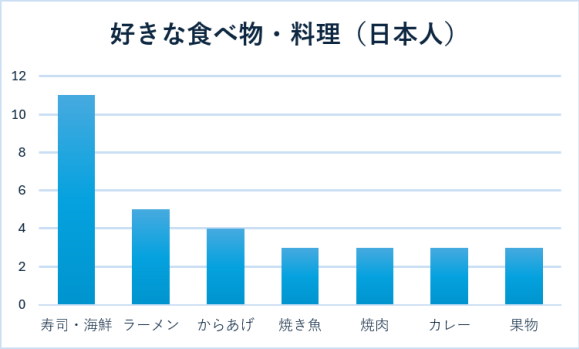
・ホストファミリーや ROBS の生徒（10～40 代）　計 23 名
・日本人の友達や親戚（10～70 代）　計 23 名

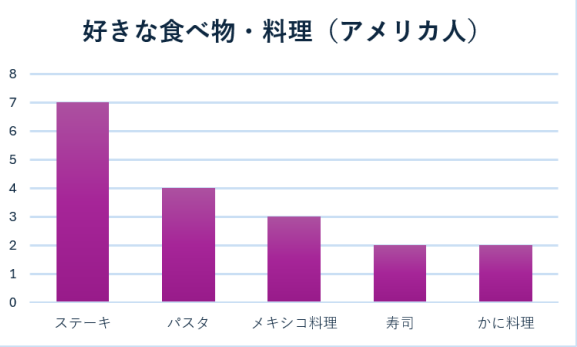
＜アンケートの項目＞

・氏名
・性別
・年齢
・出身地
・好きな食べ物や料理、どのようなところが好きか
・嫌い（苦手）な食べ物や料理、どのようなところが嫌い（苦手）か
・普段、朝食/昼食/夕食によく食べるもの
・「おいしい」と感じるのは、どのようなときか

【研究結果】

１．好きな食べ物や料理とその理由





日本人の好きな食べ物・料理は、人数の多い順に、「寿司・海鮮」が 11 名、「ラーメン」が 5 名、「からあげ」が 4 名、「焼き魚」、「焼き肉」、「カレー」、「果物」がそれぞれ 3 名だった。その他に、「納豆」、「和菓子」、「天ぷらそば」、「味噌汁」、「つけ麺」など、さまざまな回答があった。

アメリカ人の好きな食べ物・料理は、人数の多い順に、「ステーキ」が 7 名、「パスタ」が 4 名、「メキシコ料理」が 3 名、「寿司」、「かに料理」がそれぞれ 2 名だった。その他に、「ウズラやハトの肉料理」、「チキンテンダー（骨なしフライドチキン）」、「オレンジチキン（アメリカ風中華料理）」、「ブロッコリーニ焼き」など、さまざまな回答があった。

好きな理由もさまざまだったが、日本人で多かったのは、「お米に合う」や「醤油に合う」だった。アメリカ人は、「香りの良さ」、「ソースに合う」、「チーズに合う」、「ジューシー」、「栄養価が高い」、「サクサクした食感」などを挙げる人が多かった。

２．嫌い（苦手）な食べ物や料理とその理由

日本人の嫌い（苦手）な食べ物は、人によってさまざまだったが、複数名が挙げていたのは、「きのこ」が 3 名、「パクチー」と「ゴーヤ」がそれぞれ 2 名だった。その他には、「鶏皮」、「高野豆腐」、「ところてん」、「きゅうり」など、さまざまな回答があった。

アメリカ人の嫌い（苦手）な食べ物も、人によってさまざまだったが、複数名が挙げていたのは、「かぼちゃ」が 3 名、「オリーブ」と「トマト」がそれぞれ 2 名だった。その他には、「オイルサーディン」、「牡蠣」、「生ウニ」、「サワークリーム」など、さまざまな回答があった。

日本人とアメリカ人の両方で回答に挙がっていたのは、「バナナ」、「ブロッコリー」、「セロリ」だった。

嫌い（苦手）な理由には、日本人もアメリカ人も、食感や香りの強さ、苦みを挙げる人が多くみられた。

３．普段、朝食/昼食/夕食によく食べるもの

よく食べるものは人によってさまざまだったが、日本人は、朝食と夕食に「味噌汁」や「納豆」を食べる人が多くみられた。昼食には、うどん、そば、パスタ、ラーメンなどの麺類を食べる人が比較的多かった。また、日本人は、朝昼夕いずれの食事にも、味噌汁やスープなどの温かい汁物をつけていることが多かった。

アメリカ人は、朝食に、卵料理を食べる人が比較的多かった。昼食には、サンドイッチやサラダ、ハンバーガーを食べる人が多くみられた。日本人と比較すると、朝昼夕いずれの食事にも、サラダをつけていることが多かった。

４．「おいしい」と感じるとき

日本人とアメリカ人に共通していたのは、「お腹が空いているとき」と「家族や親しい人と一緒に食べるとき」に「おいしい」と感じる人が多いことだった。

アメリカ人にはなくて日本人だけでみられた回答は、「疲れているとき」で、「だしの味」や「塩気のある味」を特においしく感じるという回答がいくつかみられた。また、日本人だけでみられたのが、「温かい汁物」や「温かいごはん」など、食事の温かさについての回答だった。さらに、日本人の成人でみられたのが「大変な仕事を頑張ったあと」や「仕事を頑張ったご褒美として」という回答だった。

【考　察】

今回の研究はアメリカ人の中でもヒューストン市民を対象としたので、メキシコに近いという地理が食文化にも大きく影響していることがわかった。ステーキが日本よりも日常的に食べられていて、ウズラやハトの肉料理、カニやザリガニの料理など、日本ではあまり食べることのない料理も多く、滞在中にも何度か食べる機会があった。

日本人は、寿司に代表されるように、お米や醤油に合うものを好むことがわかった。海に囲まれた国で、新鮮な魚が手に入ることも影響しているのではないかと思った。また、味噌汁や納豆、だしの味など、和食文化の影響が感じられるアンケート結果だった。

また、アメリカ人は、好きな人たちと一緒に食べる時間として食事を楽しんでいる人が多かった印象だが、日本人の場合は、食事が、大変なことを頑張ったご褒美になるというのが特徴的だった。

【感　想】

好きな理由は日本人とアメリカ人での違いが大きかったが、嫌いな理由は比較的似ているものが多かったのが興味深かった。国際交流においては、相手の文化を知って尊重することが大切だと思うが、何かを嫌い（苦手）な理由が似ているというのは、文化の異なる外国人と同じ社会で暮らしていく上で大きな意味をもつのではないかと思った。

４．滞在感想文

馬には乗ってみよ、人には添うてみよ

佐伯　星哉

初めて参加したアメリカでのホームステイは、期待と同時に緊張と不安でいっぱいでした。しかし、ホストファミリーがとても温かく迎え入れてくれたおかげで安心感を得ることができました。

初めのうちは会話のスピードについていけず、何度も聞き返したり、伝えたい単語がわからなかったりして、考えてしまうことが多くありました。しかし日が経つにつれ、重要な言葉をピックアップして会話のポイントをつかめたり、わからない単語は簡単な言葉に言い換えたりする工夫が自然とできるようになりました。

滞在中は小さな頃から興味をもっていた NASA をはじめ、多くの場所を訪れました。ヒューストンでの生活は容姿や建物、学校制度など日本と異なることばかりでした。心配していた食事面も、ホストファミリーの手料理がどれも美味しく、毎日の楽しみへと変わりました。また、近隣の方との食事会や犬の散歩中の挨拶を通じ、地域での温かい繋がりを実感することができました。

現地校の River Oaks Baptist School（ROBS）での 3 日間の学校生活も貴重な経験でした。日課に合わせた教室移動や多様な文化に対応しているバイキング形式の昼食などのシステムに触れ、フレンドリーな生徒たちとたくさん交流できました。授業中には生徒たちが自分の考えを堂々と発言し、周囲に伝えようとする強い積極性を肌で感じました。

『馬には乗ってみよ、人には添うてみよ』ということわざの通り、現地で自ら体験してみることで本当の良さに気付くことができるのだと身をもって学びました。温かく迎えてくれたホストファミリーや、この素晴らしい機会を提供してくださった関係者の皆様には本当に感謝しています。このプログラムで得たかけがえのない出会いと経験は、僕の生涯の宝物です。

Try a horse by riding him, and judge a man by living with him

Seiya Saeki

Going to the United States for a homestay for the first time made me feel excited, but I was also full of nervousness and anxiety. However, thanks to my host family who welcomed me warmly, I was able to feel relieved.

At first, I could not keep up with the speed of their conversation. I often had to ask them to repeat what they said, or stopped to think because I did not know the right words to express my ideas. As time went by, however, I learned to catch the key points of conversations. I also became able to use easier words naturally when I did not know a hard word.

During my stay, I visited many places, including NASA, which I had been interested in since I was a child. Life in Houston was totally different from that in Japan, such as people's appearances, buildings, and the school system. Although I was worried about the food, every meal my host family cooked was delicious, and eating meals became something I looked forward to every day. Moreover, through dinner parties with neighbors and saying hello while walking the dog, I realized how warm the connections in the community were.

Spending three days at River Oaks Baptist School (ROBS) was also a valuable experience for me. I was able to learn about their unique systems, such as moving to different classrooms according to the schedule and enjoying buffet-style lunches that respect diverse cultures. I made many friends because the students were very friendly. During class, students actively expressed their opinions, and I strongly felt their eagerness to share their thoughts with others.

As the proverb says, "Try a horse by riding it, and judge a person by living with them," I learned firsthand that you can only realize the true value of something by experiencing it yourself. I am truly grateful to my host family for welcoming me so warmly and to everyone who gave me this wonderful opportunity. The priceless connections and experiences I gained through this program will be my lifelong treasures.

「話せる」だけでは、始まらない

常見　優月

私はこの夏、千葉市の姉妹都市であるヒューストン市に派遣され、ホームステイというとても貴重な経験をした。私は、海外には小学校に入る前に一度行ったことがあるだけで、ほとんど行ったことはないが、英語が好きで、英語でコミュニケーションを取ることに、それほど苦手意識を持っていなかった。そのため、ホームステイは、不安や緊張よりも楽しみの感情が上回っていた。実際に、ホストファミリーや現地の学校の生徒たちと英語で会話をすることができ、多くの人と交流することができた。

しかし、今回の経験を通じて、英語を「話せる」ことと、自分から「話す」ことには大きな違いがあると気づいた。たとえ英語が話せたとしても、自分から相手に話しかけなければ、交流は始まらない。大切なのは、英語を話せる能力だけではなく、その能力を生かして、自分から積極的に関わろうとする姿勢なのだと思った。

「話す」ことはお互いを理解することの第一歩だ。話すことで信頼関係を築き、心を開いていく。私も実際に、ホストシスターと初めて会った時からたくさん喋るようにしていた。そうしていくうちに、どんどんお互いに打ち解けていき、最後の夜にはお互いの小さい頃の笑い話などで笑い合っていた。ホストマザーにカフェに連れて行ってもらった時も、私の学校の話や友達の話をして、たくさん笑い、とても良い思い出になった。小さな一つの会話がどんどん新しい会話を生み、人との距離を縮めていくということを強く感じた。英語は、人と人とを繋ぐための「道具」に過ぎない。その道具を使って誰かと繋がろうとする気持ちこそが、国際交流の第一歩なのだと思う。外国語を「話せる」ことより、自分から積極的に「話す」こと。その一歩を踏み出すことで、国際交流が始まると思う。

最後に、このような貴重な経験をする機会をくださった千葉市国際交流協会や JASH の皆様、ROBS の先生方や生徒の皆さん、そして私を本当の家族の一員のように温かく迎え入れてくださったホストファミリー、引率してくださった谷口先生、そして一緒にヒューストンへ行った派遣生のみんなに、心から感謝したい。この出会いがあったからこそ、私は国際交流の楽しさや、人と人とがつながることの素晴らしさを実感することができた。この経験と出会いを大切にし、これからも自分から一歩踏み出すことを忘れずにいたい。

Speaking Is Just the Beginning

Yuzuki Tsunemi

This summer, I went to Houston, one of Chiba City's sister cities, where I had the incredibly valuable experience of staying with a host family. I had only been overseas once before, when I was very young, so I had little experience traveling abroad. However, I have never felt particularly uncomfortable communicating in English. Because of this, I was more excited than anxious or nervous about my homestay. In fact, I was able to have conversations in English with my host family and students at a local school, and I had the opportunity to interact with many people.

However, through this experience, I realized that there is a big difference between being able to speak English and actually speaking to others on my own. Even if you can speak English, international exchange will not begin unless you take the first step and approach someone yourself. I came to understand that what really matters is not just the ability to speak English, but also the willingness to use that ability to actively connect with others.

Speaking is the first step toward understanding one another. Communication builds trust and opens our hearts. From the very first time I met my host sister, I made an effort to talk with her as much as possible. As we continued talking, we gradually became closer, and on our last night together, we were laughing about funny stories from our childhoods. When my host mother took me to a café, we talked about my school and my friends, and we laughed together a lot. It became one of my fondest memories of this homestay. I strongly felt that even a small conversation can lead to many more conversations and bring people closer together.

English is a tool that connects people. What truly matters is the desire to use that tool to connect with others. I believe that this is the first step toward international exchange. Rather than simply being able to speak that language, it is important to actually speak to others using that language. I believe that international exchange begins when we take that first step.

Finally, I would like to express my deepest gratitude to everyone at the Chiba City International Association and JASH for giving me this invaluable opportunity, to the teachers and students at ROBS, to my wonderful host family who welcomed me so warmly as if I were a member of their own family, to my chaperone, Mr. Taniguchi, and to my fellow students delegates who traveled to Houston with me. Thanks to all the wonderful people I met, I was able to experience the joy of international exchange. I will cherish these memories and experiences. I will never forget to keep stepping forward on my own.

人と人との温かいつながり

中村　希

たくさんの人の温かさに触れたこの派遣では現地の人の優しさや意外な一面も知ることが出来た。

初めて私がホストファミリーと会ったとき、思っていることをしっかりと伝えることが出来るかがとても不安だった。しかし私のホストファミリーはこのことに対して「It's Okay!!don't worry.」と優しく返してくれ、心がすっと軽くなった。この日は私のホストシスターの友達との夕食会でたくさんの友達に会った。そこでは私が質問されたことに対してうまく答えられなくても笑顔でうなずき「never mind!!!(気にしないで！)」と言ってくれた。

派遣生全員で行った NASA ではお昼ご飯の時間に全く知らない人から、「Your clothes are truly adorable.(あなたの服めっちゃ可愛い！)」と言われた。当初は意味が分からず、泥棒⁉と混乱していたが後から意味を聞きしっかりとお礼をすることが出来た。
また、私はホストファミリーと消防署に行ったり現地の警察の人と話したりしたのだが、消防署では子供たちに消防士の帽子をくれたり、消防車のプチツアーを開いてくれたり警察官の方々はシールをくれたり、一緒に写真を撮ってくれたりした。

ROBS ではホストシスター・ブラザーどちらの学年にも行ったのだが、どのクラス、学年でも人々がとても優しかった。教員の先生方も他の生徒と同じように授業を受けさせてくれて本当に ROBS の生徒になったようで嬉しかった。

ホストファミリーとのお別れの時、熱いハグを交わして意外にもさっぱりとお別れをした。帰るときはさみしかったが、また来年会えたら会おうと約束をしたので前向きな気持ちで帰国できた。

私は英語を話すことが決して得意ではない。
今回のホームステイでも言語の壁というものは大きかったが、それ以上に相手と心をつなげよう。と思う気持ちが大切ということを知った。日本では感謝や自分の気持ちを日常的に伝えることが少ないと思った。だから私は日頃より自分の気持ちを伝えていろいろな人と心を通わせたいと思った。

最後にこの活動において協力してくださった千葉市国際交流協会、JASH、ROBS の先生方、ホストファミリーの皆さん、派遣生の親御さんの方々に心から感謝申し上げます。
本当にありがとうございました。

Warm Human Connections

Nozomi Nakamura

During this exchange program, I experienced the warmth of many people and discovered the kindness and unexpected sides of the locals.

When I first met my host family through JASH, I was very anxious about whether I would be able to clearly convey my thoughts. However, they kindly reassured me, saying, "It’s okay! Don’t worry," which instantly put me at ease. That day, I attended a dinner party with my host sister and met many of her friends. Even when I couldn't answer their questions well, they would smile, nod, and tell me, "Never mind!"

While visiting NASA with the entire exchange group, a complete stranger complimented me during lunch, saying, "Your outfit is really cute."

I also visited a fire station and spoke with local police officers alongside my host family; at the fire station, the firefighters gave children firefighter hats and provided a mini-tour of the fire truck, while the police officers handed out stickers and took photos with us.

At ROBS, I visited classes across various grade levels—including those of my host siblings—and everyone, from the students to the teachers, was incredibly kind.
The teachers allowed me to participate in lessons just like the other students, making me feel like a true student of the school.

When the time came to part ways with my host family, we shared a warm hug and said goodbye on a cheerful, positive note. Although I felt sad leaving, I moved forward with a positive mindset, having promised to meet them again next year if possible.

I am by no means good at speaking English.
During this homestay, the language barrier was significant,
but I learned that the desire to connect with the other person on a heart-to-heart level is even more important.

Finally, I would like to express my heartfelt gratitude to everyone who supported this activity.

Thank you very much.

特別な日々

築場　俊

僕にとって、ヒューストンで過ごした時間は、一生忘れることのない、思い出に残る、人生で一番楽しく濃い日々でした。二週間が、とてもあっという間に感じられました。

正直なところ、ヒューストンに行くまでは、知り合ったばかりの５人で行くことに対しての緊張や、現地でちゃんと英語を話せるかな、などの不安がありました。しかし、ヒューストンに到着して、ドキドキの中、ホストファミリーに会うと、まずは温かいハグで迎えてくれて、積極的に話しかけてくれたおかげで、すぐに緊張が解けました。そして、日本に帰りたくないという気持ちにすぐになって、これからのヒューストンでの生活に胸が弾みました。

到着して間もなく、ホストファミリーの家に着くとまず、その大きさに圧倒されました。日本では見たことのない大きな家には、ビリヤードやプール、図書館のようなスペースがあり、とても豪華でした。ホストファミリーの日常生活を一緒に経験させてもらうことで、日本との環境や文化の違いを学ぶことができました。

僕がヒューストンでの出来事の中で一番思い出に残っているのは、ホストファミリーとアストロズの試合を観に行ったことです。とても近い席で観戦できたし、さらに選手のユニフォームもお土産にと買ってくれました。試合は負けてしまったけれど、ホームランも二回見ることができて良かったです。

野球観戦以外にも、学校がない日は毎日夜遅くまでホストブラザーとゲームを楽しんだり、広い庭で遊んだりしました。夜は、毎日のように外食に連れて行ってくれて、ホストファミリーの友達も交えての時間を過ごしたり、日本ではなかなか見ることのない料理を食べたりすることができました。

現地の学校では、ホストブラザーの友達が積極的に話しかけてくれたり、ホストブラザーの家で会ったことのある友達にも学校でまた会えたりして、たくさんの友達ができました。休み時間にみんなでアメフトをしたのも楽しかったし、校内ですれ違うたびに、みんなが挨拶をしてくれました。

このように、現地の人たちが積極的にコミュニケーションをとってくれたことがとても印象的で、とても楽しかったです。これからも、日本でも海外でも、国際的な交流を積極的にして、コミュニケーションをとっていきたいと思います。

協会の方々やホストファミリー、引率してくださった先生や一緒に過ごした仲間に感謝しています。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

Special days

Shun Yanaba

I spent unforgettable, memorable days in Houston. These two weeks just flew by.

Before heading to Houston, I felt nervous about traveling with a group of five people I had only just met, and anxious about whether I would be able to speak English well. However, as soon as I met my host family, my nervousness vanished. That is because they welcomed me with a warm hug and actively struck up a conversation with me. And I was excited about my life in Houston ahead. I didn't feel homesick at all.

When I arrived at my host family's house, the first thing that struck me was the size of the house. The house was very luxurious, featuring amenities like a billiard room, a swimming pool, and a space resembling a library. By sharing the daily lives of my host family, I was able to learn about the differences in environment and culture compared to Japan.

My best memory is going to watch an Astros game with my host family. I was able to watch the game from a front-row seat, and they even bought me a player's uniform as a souvenir. The Astros lost, but it was great to see two home runs.

I also enjoyed playing games with my host brother late into the night every day and playing in the garden. They took me out to dinner almost every day. I was able to spend time with my host family's friends and eat dishes that are rarely seen in Japan.

At the school, my host brother's friends would actively strike up conversations with me. I was able to meet friends I had previously encountered at my host brother's house again at school, and I made many friends. It was also fun playing American football with them during the break. Everyone greeted me whenever we passed each other at school.

It left a strong impression on me that they communicated so proactively, and I really enjoyed it. I would like to actively engage in international exchange and communication, both in Japan and abroad.

I am grateful to the members of the association, the host families, the teachers who accompanied us, and the friends I spent time with. Thank you for giving me such a valuable experience.

おもてなし
～国境を越えた連携とおもてなしの心に触れて～

千 葉 市 立 轟 町 中 学 校
教諭 谷口 博章（引率者）

千葉市の代表としてヒューストンでの青少年交流事業に参加した日々は、中学校教員である私にとって、自身の価値観を大きく揺さぶられる、かけがえのない学びに満ちた経験となりました。今回の訪問で最も心を打たれたのは、現地の方々の温かいおもてなしの心と、細部まで行き届いた見事な連携体制です。

現地校の ROBS（River Oaks Baptist School、以下 ROBS）の視察では、極めて充実した時間を過ごすことができました。特に印象的だったのは、教員同士の密な連携です。見学スケジュールが綿密に組まれており、授業が終わるごとに先生方が流れるように次の見学先へと案内してくださいました。また、食堂では、生徒の様子を見守りながら同僚教員同士が自然にミーティングを行う姿が見られました。授業においては、教師が一方的に教え込むのではなく、生徒との対話を徹底して重視する活気ある指導が展開されており、生徒が主体的に発言しやすい環境づくりは、日々の授業実践において大いに参考となるものでした。昨年度に来日してくれた校長先生や教員、生徒たちと再会し、親交を深められたことも大変喜ばしい時間でした。

また、ホストファミリーは常に私の意見や考えに耳を傾けてくださいました。食事のリクエストや希望の行き先を快く叶えてくださり、スーパーでの買い物や念願だったアストロズ戦の観戦など、日常を共に過ごす中で本当の家族のような温かい愛情を注いでいただきました。そうした素晴らしい交流の中で、自身の英語力をさらに高めていれば、教育論や互いの文化についてより踏み込んだ対話ができたのではないかという課題感も強く抱き、教員としての自己研鑽の必要性を痛感いたしました。

日米協会のブラウン様をはじめ、今回の事業に携わってくださった皆様の強固なネットワークも特筆すべき点です。予定の変更や確認事項が生じた際にも迅速に連絡を取り合い、柔軟に対応してくださるその連携力には幾度となく助けられました。細やかにサポートしてくださった現地スタッフの皆様、温かく迎え入れてくださったホストファミリー、そしてこの貴重な学びと交流の機会を与えてくださった千葉市国際交流協会ならびに千葉市教育委員会の関係者の皆様に、心より深く感謝申し上げます。

本事業で得た知見や国際理解教育の視点を、今後の千葉市の中学校教育ならびに生徒指導・授業づくりにしっかりと還元してまいります。

Hospitality
Experiencing Teamwork and Warmth Beyond Borders

Chaperone: Hiroaki Taniguchi

Visiting Houston as a representative of Chiba City was an unforgettable learning experience that greatly changed my perspective as a junior high school teacher. What moved me most during this trip was the warm hospitality of the local people and their incredible teamwork.

My visit to the local school, ROBS (River Oaks Baptist School), was very fruitful. I was especially impressed by how closely the teachers were able to work together. The schedule was well organized, and the teachers smoothly guided us between classrooms, lesson after lesson. In the cafeteria, I saw teachers naturally having meetings while keeping a watchful eye over their students. In the classrooms, teachers did not just lecture. Instead, they focused on maintaining a dialogue with their students. This active and open style where students could speak freely will be very helpful for my own teaching environment in Japan. It was also a great joy to be able to meet again with the principal, teachers, and students who visited Japan last year and deepen our friendship.

In addition, my host family always listened to my thoughts and ideas. They kindly welcomed my requests for meals and places I wanted to visit. Spending daily life together—such as shopping at the supermarket and watching my long-awaited Astros baseball game—made me feel the warm love of true family. At the same time, this wonderful exchange made me feel that I need to improve my English skills. If my ability to communicate had been stronger, I could have shared deeper ideas about education and our cultures. This experience made me strongly feel the need to keep learning as a teacher.
The strong network of the people involved in this program, including Ms. Brown from the Japan America Society of Houston, also impressed me. Whenever plans changed or questions came up, they were able to quickly communicate with each other and handle everything flexibly. Their strong teamwork was an immense help.

I would like to express my deepest gratitude to the local staff for their thoughtful support, the host families for their warm welcome, and the Chiba City International Association and the Chiba City Board of Education for giving us this valuable opportunity.
I will bring back what I learned from this program to junior high school education in Chiba City, and use these insights to strengthen my teaching and student guidance in the future.

５．記録写真（思い出の写真）

（１）佐伯　星哉



バッキーズに連れて行ってもらいました。
ガソリンスタンドに大きなスーパーがくっついている感じでした。人気のハンバーガーを食べました。



隣の家でピザパーティーをしました。
一からピザを初めて作りました。とてもおいしかったです。



高級なレストランに連れて行ってもらえました。A5 ランクのお肉や、ロブスター、トリュフを使ったソースなど初めて食べるものばかりで感動しました。



River Oaks Baptist School（ROBS）の体育の時間に男の子たちと撮ってもらいました。みんなフレンドリーで優しくしてくれました。



ROBS での発表のときの写真です。クイズやソーラン節を披露しました。



最後の夜に連れて行ってもらいました。
いろいろなアスレチックや遊び場があって、とってもいい思い出になりました。

（２）常見　優月



初めてホストファミリーと対面した日です！「日本」と書かれた帽子を被り、ハグして迎えてくれました。



初日の夕飯に Tex-Mex のレストランに連れて行ってもらいました。とても美味しかったです！



持って行ったかき氷機をすごく気に入ってくれて、２回も一緒に作りました！おにぎりと味噌汁も作りました。



ROBS の Bible の先生はとても優しく、時々オフィスでお茶を飲みながら授業をします。運よく私もその授業に参加でき、Apple Cinnamon Tea を頂きました！

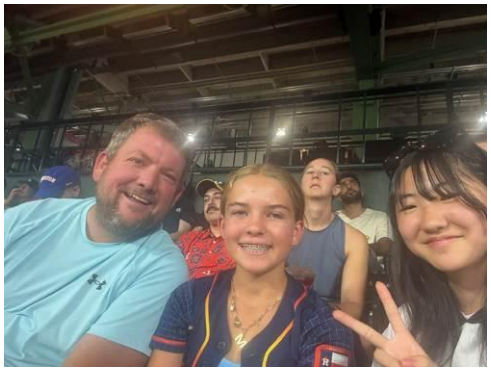


ROBS で Advanced Orchestra という選択科目のクラスの生徒全員と写真を撮りました。みんなそれぞれの楽器を弾くのがとても上手で驚きました。



頂いた TEXAS と書いてあるＴシャツを着て、何度もハグして、涙のお別れをしました。

（３）中村　希

<table>
<tr>
<td>
初めて行ったテックスメックスのお店で
まさかの現地の警察さんと遭遇！！
写真を撮っていただきました。</td>
<td>
ホストファミリーに消防署に連れて行って
いただいた帰り道。のんびり歩きすぎて追い
つくために全力で走りました。</td>
</tr>
<tr>
<td>
アストロズの試合観戦。
この日はわずか１点差で負けてしまいまし
た。観客席の皆さんでウェーブを作ったのが
とても感動しました。</td>
<td>
ROBS での給食。
この日二回目のランチだったことは内緒…
いろいろな人と話せて楽しかったです！</td>
</tr>
<tr>
<td>
初めて他のホストファミリーと遊んだ日！
おうちが広くて驚きました…</td>
<td>
学校終わりにカラーファクトリーに行きま
した！3 人とも大はしゃぎでした！</td>
</tr>
</table>

（４）築場　俊



ホストファミリー全員で、ウェルカムプールパーティーを開いてくれました。他のホストファミリーとも話せて、とても楽しかったです。



ホストファミリーがアストロズの試合に連れて行ってくれました。前の方の席を取ってくれて、最高でした。日本人選手のユニフォームをプレゼントしてくれました。



ホストファミリーの友達家族が何組か遊びに来て、みんなでアメリカンフットボールのドラフト会議を観ました。アフリカ旅行の写真も見せてもらいました。



ホストファミリーが教会に連れて行ってくれて、その後レストランで食事をしました。教会では、バンドや歌手の演奏を聴いて、初めての経験でした。



ROBS では、ホストブラザーの友達とも仲良くなりました。給食はビュッフェ形式で、日本の給食とは少し違って興味深かったです。



最後の夜は、ごはんや味噌汁などの日本食を作りました。海苔巻きを気に入ってもらえました。食後は、ホストブラザーとゲームをして、お別れしました。

（５）引率者



ショッピングの前に有名なジェラルド・D・ハインズ・ウォーターフォールパーク（オフィス街にある人工の滝）に行き、マイナスイオンを浴びました。天然のエアコンです。



早朝のメモリアルパーク（公園）でのひと時、池には大量のカメがいました。ホストブラザーとシスターは生き物が大好きです。



（左）週末の金曜日に念願のアストロズ戦に連れて行ってくれました。
（右）ダイキンパークでのスタジアムツアー。フィールドに立てた感動は……。



MIA’s Table（レストラン）でホストファミリーと祖父母、従妹家族と昼食会。
とても仲の良いご家族でした。ビッグサイズ料理をシェアしながらいただきました。



土曜の早朝に HOUSTON ZOO（動物公園）に行きました。水族館と動物園が合わさった魅力ある場所でした。



RAGIN CAJUN（シーフードレストラン）で大好きなシーフードを堪能しました。

令和８年度 青少年交流事業
アメリカ・ヒューストン市派遣 帰国報告書

発行　令和８年１１月
編集・発行　公益財団法人千葉市国際交流協会
〒260－0013
千葉市中央区中央３－３－１
フジモト第一生命ビルディング２階
TEL：０４３－３０６－１０３４
FAX：０４３－３０６－１０４２
URL：www.ccia-chiba.or.jp/